

第38回
月窓寺

吉祥寺薪能

仕舞 野宮 のみや

観世清和

狂言 樋の酒 ひのさけ

野村万作
野村萬斎

能 小袖曾我 こそでそが

観世三郎太



写真:『小袖曾我』観世清和 観世三郎太 提供:観世宗家

前売券のお求め〈全席指定〉

A席 4,500円 / B席 3,500円

お電話での予約はできません

8月23日(金)午前9時30分より

武蔵野市観光機構

商工会館1階

☎0422-23-5900

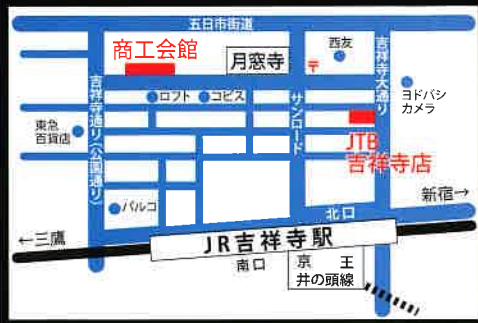
受付時間: 9時30分~17時30分

8月23日(金)午前10時より

JTB 吉祥寺店

☎0422-35-8483

受付時間: 10時~17時



令和六年 十月十七日(木)

午後五時十五分開演(四時三十分開場)

ところ ■ 吉祥寺 月窓寺境内

ろうそくのう

雨天 ■ 武蔵野市民文化会館にて 蠟燭能

主催 ■ 吉祥寺薪能実行委員会

後援 ■ 武蔵野市 / 一般財団法人武蔵野市開発公社

吉祥寺新能

令和六年十月十七日(木) 午後四時三十分開場 午後五時十五分開演

大会長挨拶

吉祥寺新能実行委員会大会長

稲垣 英夫

市長挨拶

武蔵野市長

小美濃安弘

一番組

狂言解説

高野 和憲

火入の儀

仕舞 野宮 観世 清和

地謡 杉浦悠一朗
坂口 貴信
浅見 重好
武田 文志

狂言 樋の酒 太郎冠者 野村 万作

主 中村 修一
次郎冠者 野村 萬齋
後見 飯田 豪

能解説

横浜能楽堂芸術監督 中村 雅之

休憩 十五分

小袖曾我

能 母 角 幸二郎
五郎 関根 祥丸
十郎 観世三郎太

春日局 野村 裕基

大鼓 亀井 広忠
小鼓 飯田 清一
笛 杉 信太郎

後見 木月 宣行
清水 義也

地謡 久田勘吉郎 岡庭 祥大
田口 亮二 浅見 重好
坂井 音晴 観世 清和
武田 文志 坂口 貴信

(終了予定 午後七時三十五分頃)

演目の御案内

狂言樋の酒(ひのさけ)

外出の用事ができた主人は、太郎冠者には米蔵の、次郎冠者には酒蔵の番をするよう命じて出掛けて行きます。言いつけ通りに蔵の番をしていた二人でしたが、次郎冠者は蔵の酒を盗み飲んでしまいました。その様子を見た太郎冠者は羨ましがりますが、米蔵を離れられません。そこで蔵の間に樋(とい)を渡して、次郎冠者に酒を流してもらうことを考え、二人はそれぞれの蔵で酒を飲み始めます。やがて太郎冠者は米蔵の番を忘れて酒蔵へ行き、二人で酒盛りをしているところに主人が帰ってきて・・・。

能小袖曾我(こそでが)

所領争いから従兄の工藤祐経(すけつね)に父を討たれた曾我十郎祐成(すけなり・シテ)と五郎時致(ときむね・ツレ)の兄弟は、源頼朝が富士山麓で行おうとしている狩りに祐経が参加すると考え、この機に乗じて父の仇討ちをしようと計画し、暇乞いのために母(ツレ)のもとを訪れます。

以前、出家せよとの母の意に反して母から勘当を受けた五郎を許してもらおうと説得する十郎ですが、五郎を庇うならば十郎も勘当すると言われてしまいます。十郎は五郎を連れて母の前に進み出て、暇乞いは父の仇討ちの為であることや、母の無慈悲さを訴えますが許してもらえず、泣く泣く母のもとを立ち去ろうとします。二人の姿に心を打たれた母は、ついに勘当を解こうと二人を呼び止めます。二人は喜びの涙を流し、母と共に門出の酒宴を行い、兄弟で勇壮な男舞を舞い、仇討ちへと出発して行くのであった。

会場案内図

- 雨天の際は、武蔵野市民文化会館にて行います。
- 演者は都合により、断りなく変更することがあります。
- 開演中の写真撮影及び録音は一切禁止いたします。
- 会場には、駐車場がありませんので、お車でのご来場はご遠慮ください。
- 寺院境内につき、誘導員の指示によってご入場、ご退場ください。その他、係員の指示に従って頂きます。

雨天会場

●バス
1番線 向台町五丁目、桜堤団地、関前西公園行
2番線 電通裏、武蔵野営業所、柳沢駅行
※市民文化会館前 下車

●徒歩 13分

●バス
1番線 北裏、武蔵野営業所、武蔵関駅、田無橋場行
2番線 柳沢駅、東伏見駅北口行
4番線 武蔵境駅、緑町二丁目、武蔵小金井駅行
5番線 電通裏行
6番線 天神山行
※市民文化会館入口下車徒歩2分

本会場

月窓寺

▲吉祥寺駅北口から徒歩3分

吉祥寺駅